

4. エビ漁場調査

久 貝 一 成

I 調査目的

沿岸の水深200m以深のエビ類等、未利用資源及び漁業特に将来の網漁業の開発振興に資するためである。

II 調査方法

エビ籠(構造図別紙)29箇(真鍮製20箇、針金製9箇)を使用して底延縄方式で操業し、作業順序は大体「深海サメ延縄」の方法で行う。

入籠エビ等については籠毎にチェックし、サンプル採集の上、生物的分類と各漁場の漁獲状況からエビ等の分布状況を観察し、漁具や作業効率等を把握する。

III 調査概要

1 調査船及び乗組員

イ 調査船、くろしお(21.44^TD 100HP)

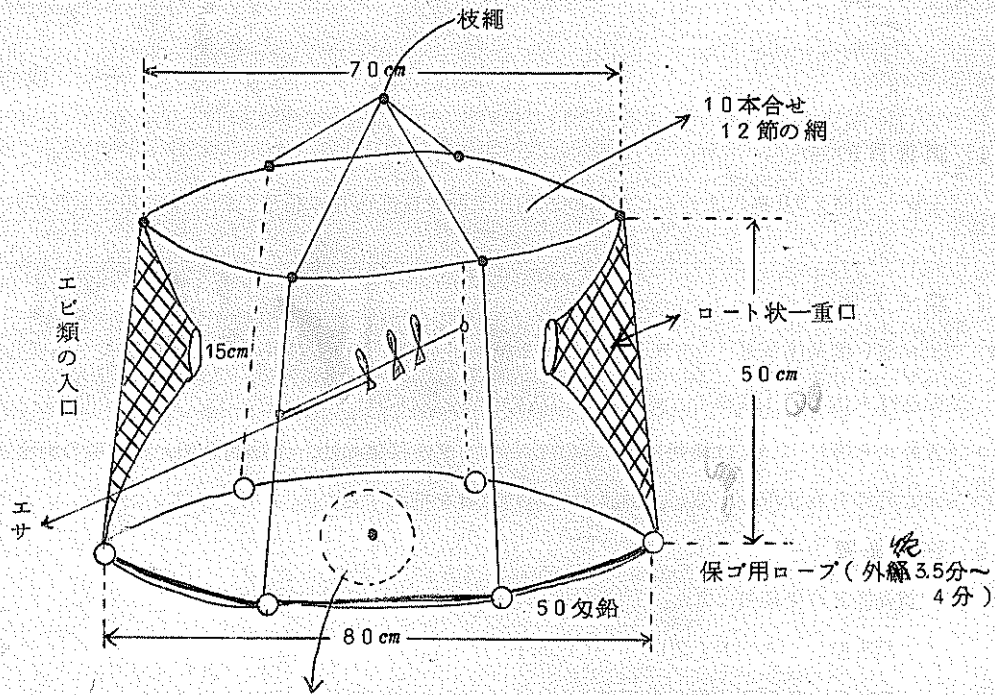
ロ 乗組員、比嘉幸一船長以下7人

2 調査期間、1967年9月22日～9月28日(7日間)

3 調査海域、名護湾沖合(別紙漁場図参照)

4 使用漁具、エビ籠29箇

図 1 真鍮製エビ籠



エサの取付けまたは入籠物の取り出し口 (中央に輪状に網でつくり、ヒモで開閉できるようにになっている)

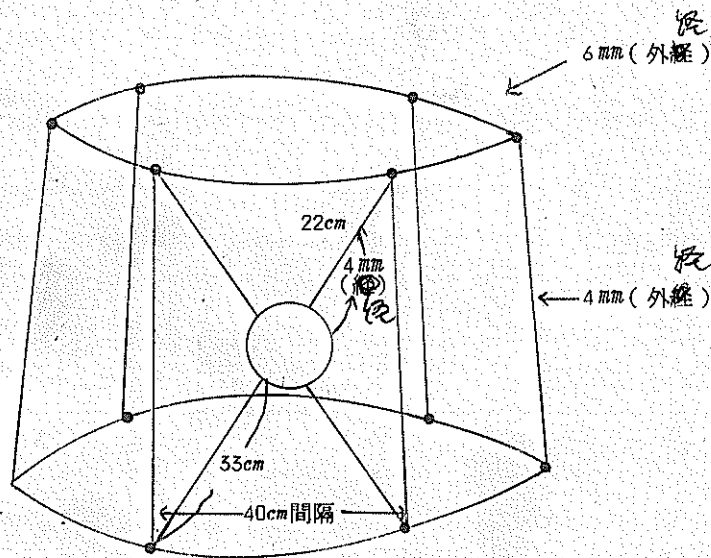
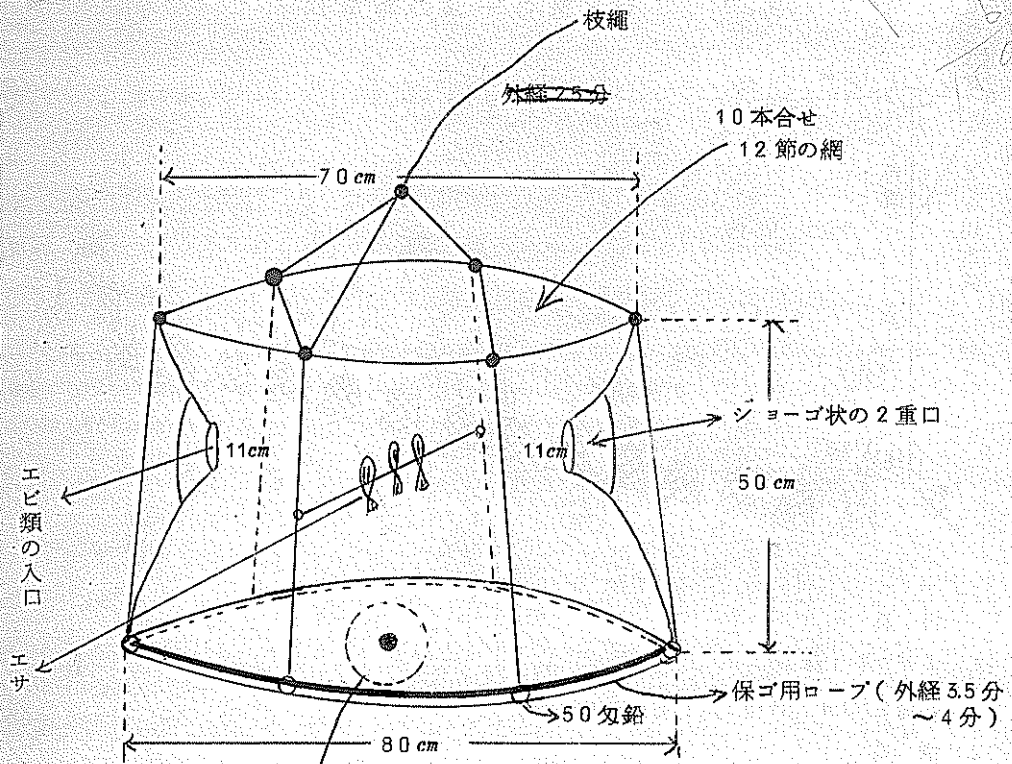
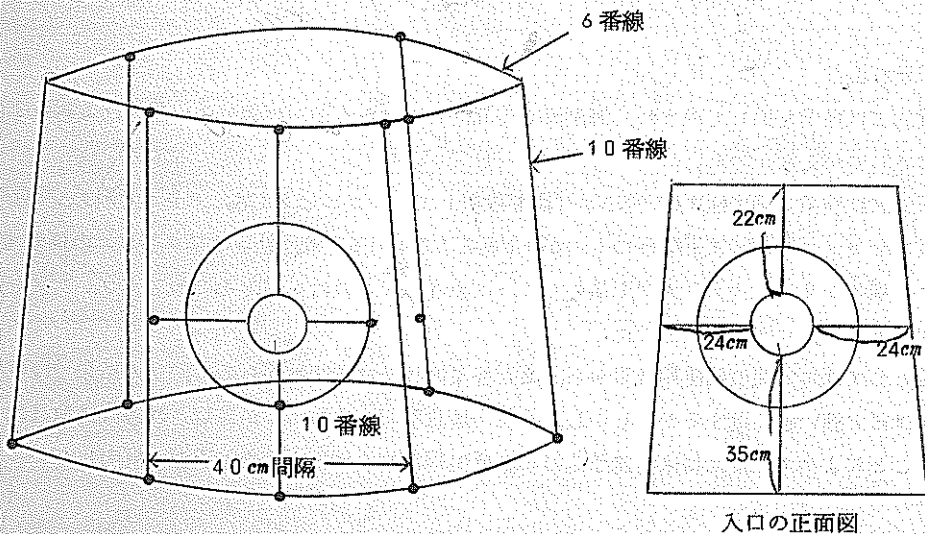


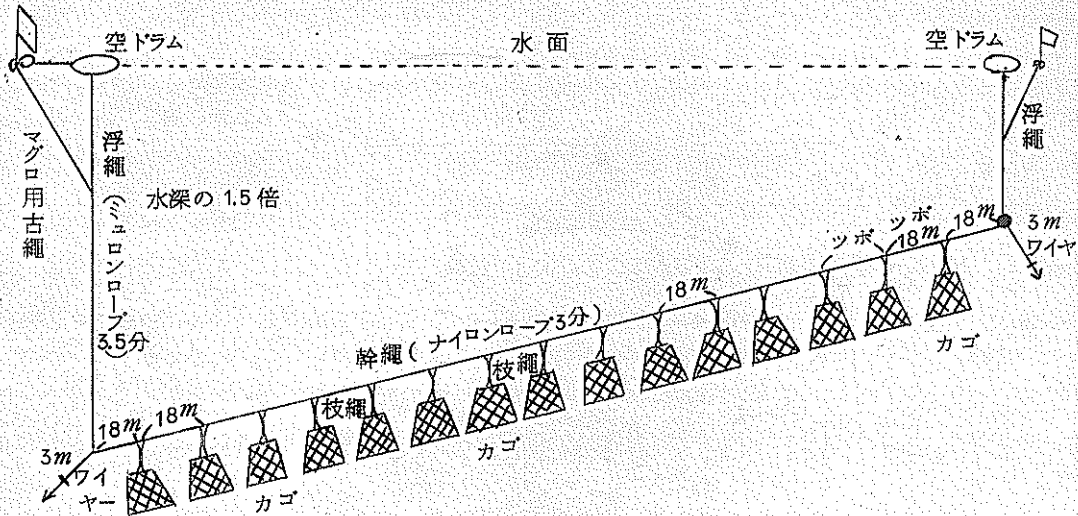
図2 針金製エビ籠



エサの取付けまたは入籠物の取り出し口(中央に輪状に網でつくり、ヒモで開閉できるようにしている)



底延縄式
エビ籠の一連の構成図



漁具

1. 大きさ(1鉢)

幹縄 270 m 枝縄 3 m (籠にとりつける), 籠 15 個

2. 構造

幹縄 - ナイロンロープ 3 分, 270 m のもの

浮縄 - ミユロンロープ 3.5 分, 水深の約 1.5 倍。及びマグロ用古縄

錨 - 11 kg, 元浮縄下部, 裏浮縄下部各 1 ケ

浮標 - 空ドラム。ハイゼックス球各 3.6 cm 3 ケ 1 組

枝縄 - 2.5 分 ナイロンロープ (籠に固着)

5. 海況及び漁況

海況的には操業を通して恵まれ、海潮流も時間的な差はあるが、極端に強い流れはみられず操業にはさしつかえなかった。

漁況的には操業 6 回で延 165 箇のエビ籠を設置して、ハコエビ 28 尾、タラエビ科のジンケンエビ及びオキノスジエビに近縁種のものが 11 尾と 57 尾計 68 尾、カニはワタリガニの種類でヒメガサミ属のが 2、ジャノメガサミ属のが 3、アカイシ^{ガニ}が 1 の計 6 尾、その他アナゴ、サメ(殆んどツノザメ)、キダイ等であった。

漁況としてはエビ籠の延使用数量から、また操業回数及び時間等からみて、この結果では経済効果にはほど速い感じはするが、しかし、今まで棲息不明の深海エビが確認され、今後漁具数を増やすことにより、また将来実施予定の小型底曳網漁業等による調査で資源を解明したい。

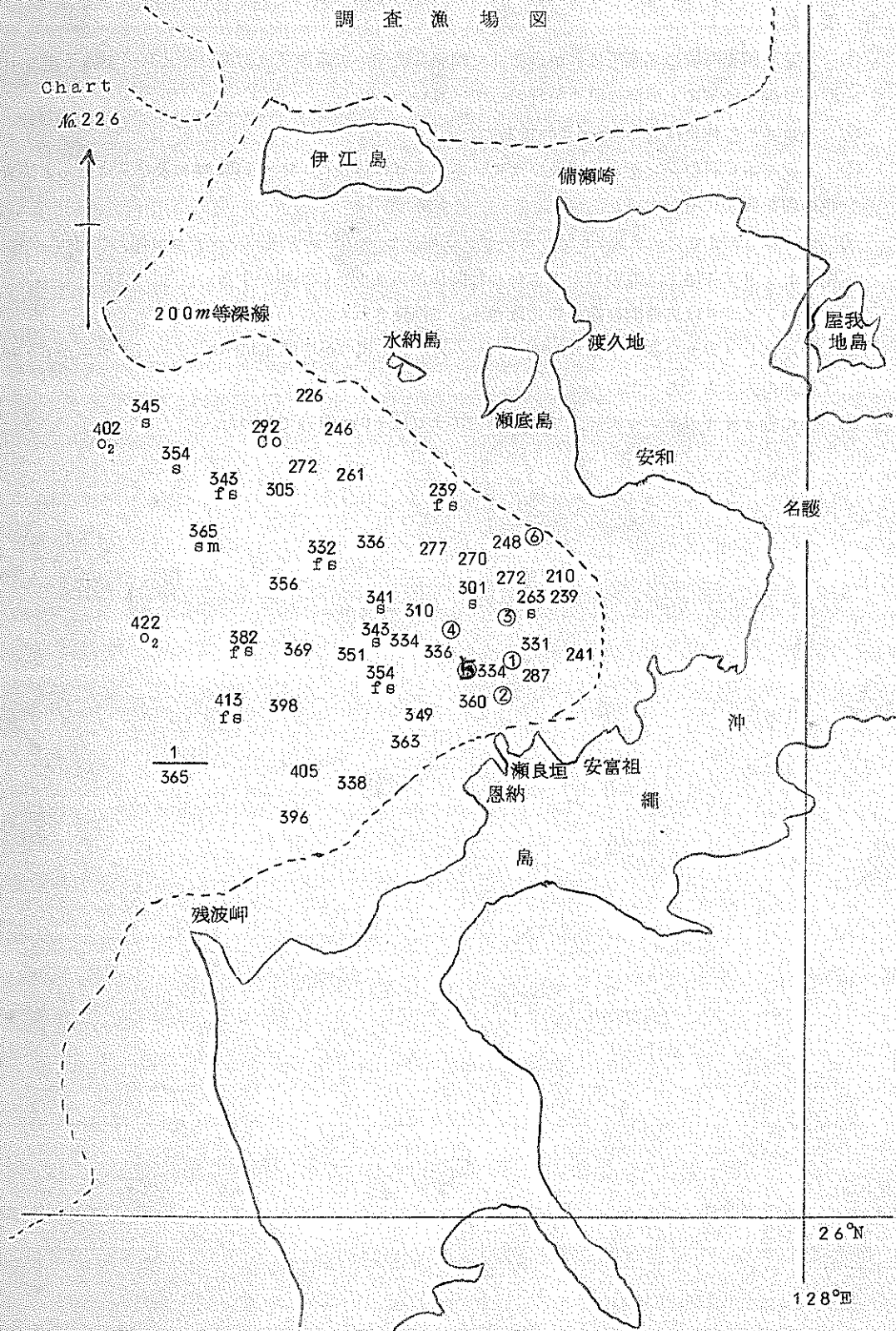
操業一覽表

操業順位		1	2	3	4	5	6
操業年月日		1967年9月23日~24日	1967年9月24日~25日	9月25日~26日	9月26日	9月26日~27日	9月27日~28日
観測日時		23日 09h~00m	24日 10h~00m	25日 15h10m	26日 09h18m	27日 08h22m	28日 07h30m
天気雲量		B 2	C 8	C 8	B 10	C 8	B 2
気圧		1018.2mb	1021.6mb	1020.6mb	1018mb	1018mb	1013.8mb
気温		25.5℃	26.4℃	25.1℃	24.8℃	24.2℃	24℃
表面水温		26.5℃	26.4℃	26℃	26.0℃	25.8℃	26.0℃
風向風力		N 2	NE 3	NE 3	NE 3	NE 2	N 2
波浪		1~2	1	2	2	0	1
流向流速		NE約0.7kn	E約0.7kn	NE約0.8kn	NE約0.4kn	E約0.3kn	S約0.3kn
水深		270m~290m	305m	295m~300m	320m~330m	330m~350m	205m~225m
漁場位置		26°32.1'N 127°51.7'E	26°31.4'N 127°51.5'E	26°33.1'N 127°51.8'E	26°32.7'N 127°50.3'E	26°31.8'N 127°50.4'E	26°34.8'N 127°52.3'E
投網	時刻	23日 09h 05m	24日 10h 10m	25日 15h 20m	09h 24m	26日 15h 45m	27日 10h 14m
	時刻	09h 35m	10h 25m	15h 35m	09h 33m	15h 55m	10h 21m
所要時間		30分	15分	15分	9分	10分	7分
揚網	時刻	24日 07h 50m	25日 08h 25m	26日 08h 09m	15h 00m	27日 08h 38m	28日 07h 36m
	時刻	09h 15m	09h 20m	08h 45m	15h 35m	09h 13m	08h 10m
所要時間		1時間25分	5.5分	3.6分	3.5分	3.5分	3.4分
使用籠数		29ヶ	29ヶ	2.6ヶ	2.7ヶ	2.7ヶ	2.7ヶ

採 集 順 位	1	2	3	4	5	6
餌の種類	いか, さんま	さんま	いか, さんま	いか, さんま	さんま	さんま
ハコエビ	4	13	5	1	2	3
ジンケン	4	1	3		3	
エオキノズシ	18	5	19		15	
エビ(?)	2		1		2	1
カニ	1	3			2	1
アナゴ	4	6	12	6	4	1
サメ	2	6	5	7	2	2
その他						
備 考	カニはワタリガニ科の1尾はアカイシノメニ匹1尾はジャノメガサミに類似 ○サメはツノザメ2ホシザメ1 ○ジンケンエビ, オキノズシエビについては一応図鑑にて検索するも不確定 ○その他はキダイヤドカリでした ○初めて沖崎諸島にエビの産息を確認	エサは殆んどとられる(小魚の出入りがあるか?) ○サメは4尾はツノザメ, 2尾はホシザメ ○ハコエビ多し多量棲息しているか ○アナゴは70cm内外	○サメは殆んどツノザメ ○概ね針金製の入り籠率は良い(口の作り方によるか) ○カニはヒメガザミ?	○サメは全部ツノザメ ○その他はキダイ ○沈没時間が短かく昼間でもあるためか, エビの入籠少なし ○エサは殆んど残って揚がる。	○サメの内1尾はア1ザメ, 2尾はツノザメ, 1尾はトラザメ ○その他はオオギエビ ○カニはジャノメガサミに類似	○カニはワタリガニ科のヒメガサミに類似 ○サメはヒョウザメ ○shimple入籠なし

調査漁場図

Chart
No. 226



IV 要 約

- ① 今度の調査海域の名護湾は砂か砂礫性で傾斜も緩やかで籠漁業は勿論のこと今後実施予定の小型底曳網の操業にも海洋の第1条件としては良い。
- ② ハコエビの体長は31cm~38cmであった。
- ③ タラバエビ科のジンケンエビ及びオキノスジエビは体長55mm~102mmに及び♀は殆んど淡青色の卵を腹部に有していた。
- ④ サメは33尾でツノザメ25尾、ホンザメ3尾、ヒョウザメ1尾、ツマグロ2尾、アイザメ1尾、トラザメ1尾で、籠の口が小さかった関係がアイザメの出現が少ない。
なおアイザメは真鍮製の籠の口にはさまって漁獲された。
- ⑤ カニはヒメガザミ属が甲幅50mm、ジャノメガザミ属のが甲幅110mm、アカイシガニが85mmで普通の大きさであった。
- ⑥ その他オオギガニ、キダイ、アナゴ等でアナゴは70cm内外であった。